

令和 5 年 5 月 27 日現在

機関番号：14301

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H06379

研究課題名（和文）言語の起源・進化研究の理論的枠組み

研究課題名（英文）Theoretical Frameworks for Studying the Origins and Evolution of Human Language

研究代表者

藤田 耕司 (Fujita, Koji)

京都大学・人間・環境学研究所・教授

研究者番号：00173427

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 99,880,000円

研究成果の概要（和文）：人間の大きな特徴である言語および言語コミュニケーションの起源・進化について、本計画班では理論言語学の知見を活用した斬新な仮説を構築し、他計画への作業仮説を提供した。これに「共創言語進化」領域全体で学際的な検討を行い、修正を加えることでより妥当な言語進化のシナリオを構築した。特に、言語進化の2大要因として階層性と意図共有に着目し、これらを統合理解することを目指した。生成文法と認知言語学という理論言語学の2つの潮流の間の対立を超え、双方の利点を音韻論や歴史言語学、神経言語学、生物言語学等の最新成果と融合することでこの目的を達成したが、これ自体が言語学に前例のない革新をもたらすものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

言語進化学は新興の学術領域であり、これまで主に海外で行われてきたものの、そこでは異分野間の対立のみが目立ち、真の学際性に欠けていたと言える。本領域では「共創」の考え方を重視し、多数の関連分野間の共同研究を推進してきたが、それは本言語理論班において特に明白である。言語学内部では激しく対立する生成文法と認知言語学であるが、本計画班はこのような対立を超えなければ言語進化の問題に迫ることはできないと考え、両者の利点を融合することを目指した。結果として、言語の階層性の進化には意図共有と共通の一般的認知能力の基盤があることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）： In exploring the origins of evolution of uniquely human language and linguistic communication, our project provided novel ideas as working hypotheses for the other projects in the same “Evolinguistics” project. Together, we critically examined those hypotheses in an interdisciplinary collaboration, revising them into more plausible ones. We took hierarchy and intention sharing as two major factors in language evolution and aimed to understand them in a unified manner. We achieved this goal by transcending the surface opposition of generative grammar and cognitive linguistics and integrated the advantages of these approaches with latest advancement in phonology, historical linguistics, neurolinguistics, biolinguistics, etc., which itself is a major unprecedented innovation in linguistics.

研究分野：言語進化学・理論言語学

キーワード：言語の起源・進化 階層性と意図共有 生成文法と認知言語学 生物進化と文化進化 併合およびその起源・進化 運動制御起源仮説 言語の神経基盤

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

言語能力は思考とコミュニケーションをはじめ、およそ人間の知的活動のすべてを支える認知機能であり、人類にとってもっとも重要な固有形質といえる。この言語能力が最初、どのようにして人類に出現し、どう変化・多様化・複雑化してきたのかをめぐっては古くから多くの議論があったものの、経験科学としての言語進化研究(言語進化学ないし進化言語学)が形成され実践されるようになったのはごく最近、1990年代以降のことである。当初は欧米を中心に行われていたが、その高い学際性ゆえに百家争鳴の状態が続き、異なる分野・学派間の対立のみが目立っており、異分野間の協働は実質、存在しなかった。そもそも言語とは何か、言語の主機能は思考かコミュニケーションか、言語は漸進進化したのか突発的に出現したのか、などいずれも言語のみならず進化研究全般にも共通する重要な論点をめぐって、統一見解が存在せず、実質的な学際研究は不可能であるというのがそれまでの現状であった。新学術領域「共創言語進化」はこのような状況を打破し、わが国ならではの真に学際的な言語進化学を立ち上げ、推進してこの分野におけるわが国の優越性を確立すべく立案されたものである。その中であって本言語理論班は、最新理論言語学の知見を活用して言語および言語コミュニケーションの起源・進化に関する妥当な作業仮説を構築、これを他班に提供し検証・修正を繰り返してより優れた進化シナリオの領域全体による「共創」につなげることを目指した。領域代表をはじめ、本領域各計画班代表らはこれまでも長きに渡ってともに言語進化研究に取り組み、多数の出版活動や講演活動、シンポジウム開催などを通じて、この分野の発展に寄与してきたという実績をもつ。特にわれわれが中心となって2012年に京都で開催した「第9回言語進化の国際会議」(Evolang 9)は同会議初の欧米圏以外での大会であったが、同会議史上最多の参加者を得、異分野間の議論も活発に行われてそれまでにない盛り上がりを見せた。この成功を受け、これをさらに発展させて国際規模の言語進化研究を牽引していきたいと考えるに至ったことも、本研究開始当初の背景として重要である。

2. 研究の目的

本研究は言語学の立場から言語進化学に寄与しようとするものであるが、言語進化研究は言語学だけでは成立せず、多数の関連分野との協働を必要とする高度に学際的な学問である。ましてや言語学内部におけるどのようなアプローチであれ、それ1つで足りるということはありません。さまざまなアプローチの利点を繋いで新しい視点を確立しなければ言語学が言語進化研究に貢献できる可能性は限りなく低いとしなければならぬ。このような観点から、本研究は言語進化という大きな問題を考究することを通じて、これまでになかった総合的な言語理論の構築と、それに基づく言語進化学の推進を大きな目的として掲げた。特に、現代理論言語学の2大潮流とされる生成文法と認知言語学の間には、言語の本質や生成文法が主張する普遍文法(Universal Grammar, UG)の存在をめぐってこれまで激しい対立があったが、本研究ではこのような対立は健全な言語進化研究の発展を阻害するものでしかなく、両者の主張を整合的に融合することが喫緊の課題であり、またそのことによって言語学内部にも大きな革新をもたらすことが可能であると考えた。本領域全体として、階層性と意図共有の2つを言語進化の主要要因と位置づけているが、これはそのまま生成文法と認知言語学それぞれの考え方を象徴するものである。生成文法では、言語のもつ階層構造を生物学的にも特異な人間言語の形式的特徴であると捉え、これを思考への適応として重視するのに対し、認知言語学では意図共有に裏打ちされたコミュニケーション機能を重視する。本研究はそのいずれもが言語の1側面しか捉えておらず、階層性と意図共有、あるいは思考とコミュニケーションの相互作用、共進化関係にこそ注目すべきであると考え、両者の統合を目指すこととした。さらに、この指針に沿って、言語の外在化を担う音韻システムの進化を問う音韻論的研究、言語の文化進化を扱う歴史言語学的研究、言語の脳神経基盤や遺伝子基盤を探る神経言語学的・生物言語学的研究を合流させ、言語進化の実相の総合的理解を実現することとした。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、本研究内に5つの研究グループを設け、それぞれが直接扱うテーマ、およびそれを軸とする班内連携・班間連携を推進した(図1, 表1)。

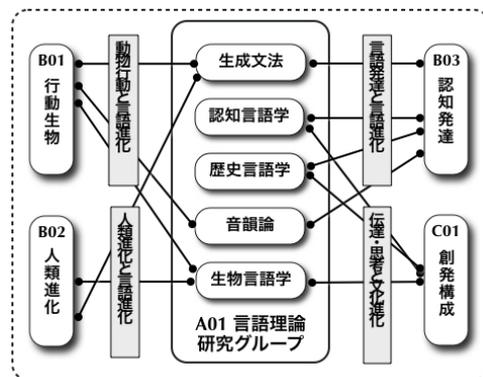


図1 本研究内研究グループと他班との共同研究体制

生成文法	併合のみに基づく統語理論及び語彙概念理論，統語演算理論の構築とその神経基盤，人類進化に照らした普遍文法の出現時期推定
認知言語学	言語獲得との平行性に着目した言語進化，アフォーダンス・記号接地に照らした言語意味の知覚・身体基盤
音韻論	音韻知識と音声コミュニケーションの進化，他種音声学習との比較に基づく感覚運動系の進化
歴史言語学	普遍文法と使用基盤の双方に照らした文法化・文化進化，コミュニケーションを通じた文法創出・文化進化
生物言語学	併合・階層文法の起源・進化、原型言語と人間言語，思考・コミュニケーションと言語進化の関係、人工文法学習，脳進化・遺伝子進化の観点からの言語能力・認知能力の進化，言語と音楽に共通する階層文法とその進化

表1 本計画研究内の研究グループ

領域内における言語理論班としての位置づけから，本研究は先行研究をさらに進展させる理論研究が中心となるが，脳機能計測など実験的手法による実証的研究も並行して推進する。以下，各研究グループの研究内容と研究方法である。

(1) 生成文法 階層文法の基盤をなす基本演算操作「併合」(Merge)につき，その理論的精緻化と進化的ルーツの解明に取り組む。具体的な言語現象の分析を通じて，従来の併合理論の問題点を明らかにした上で，その進化的意義を考察する。また人類進化史においてこの併合の出現が言語能力をもたらしたと考え，その出現時期を進化人類学的知見に基づき推定する。

(2) 認知言語学 生成文法との接点を模索し融合を目指すため，言語以外の認知能力や身体性に注目した階層性の発生メカニズムを考究する。言語発達における語彙意味や構文意味の獲得の研究を通じ，進化と発達を接続する。(1)生成文法と同様，言語現象の分析が中心的な研究方法となるが，完成された構文を所与のものとして分析するのではなく，その構文が最初どのようにして出現したのかをコーパス調査などにより明らかにする。

(3) 音韻論 言語の外在化を担う音韻論については，従来，階層構造を線形構造に変換するものと考えられてきたが，音韻構造にも階層性があり，統語的併合同様の演算によって定義されるものであるという可能性を理論的・実証的に追求する。これまで統語部門に限定して論じられてきた階層性が，言語のすべての下位機能に共通する特質であることを論証する。これにより，併合自体の進化についても，より広範な視座からの再検討が可能となる。

(4) 歴史言語学 言語進化には生物進化のみならず文化進化も含まれるが，個別言語の通時的発達を扱う歴史言語学はこの文化進化の研究に含まれる。特に英語発達史を取り上げ，綿密なコーパス調査に基づいて明らかとなる文法変化が，言語進化学の枠組みでどのように捉え直すことができ，またそれが生物進化に対してどのような新たな視座をもたらすかを考察する。

(5) 生物言語学 言語能力の生物学的基盤として，特に併合の神経基盤の同定に焦点を当てた脳機能計測実験を実施する。また言語以外の認知機能と言語を比較し，言語特定のではない認知基盤から言語専用の組み合わせ操作としての併合が進化する可能性を検討する。生物進化においては前駆体からの漸進適応進化によって新形質が生じるのが常であり，領域固有性が主張される併合についてもそのようなより自然な進化シナリオを構築するための研究を実施する。

以上のような多岐に渡る研究グループごとの成果を統合し，これらを他の計画班との共同研究によってさらに洗練させることで，本研究の目的を達成することとする。

4. 研究成果

(1) 併合の進化的前駆体を道具使用などに見られる物体の階層的な操作能力とする「運動制御起源仮説」(Fujita 2017 他)を拡張してその精緻化を行った。同じ併合が語彙の進化や音韻構造の構築にも関わっていることを指摘し，言語の各下位機能に共通する階層性を統一的に説明する可能性を開いた。またこの併合の出現時期が従来考えられていたよりかなり古く，20～30 万年前に遡る可能性を示した。

(2) 幼児の言語発達を手がかりに言語進化を探るため，特に語彙発達に注目して範疇未指定の要素が発達とともにメタファー・メトニミーの拡張要因によって名詞や動詞等の特定の範疇に分化していく様子を明らかにした。また認知言語学の立場から言語進化学に貢献し得る新たなテー

マとして類像性・指標性を提起し、これらの記号創出に関して人間と他の動物の相違性と連続性についての知見をまとめた。

(3) 狭義の統語演算のみならず、音韻素性を対象とする併合操作の存在を母音調和などの現象分析に基づき明らかにした。また音素の構造表示としてエレメント理論の卓越性を実証し、これが言語獲得や言語進化の観点からも弁別素性理論より妥当性が高いことを示した。「日本全土諸方言の母音融合に関する連続分布データベース」を構築したことも大きな成果である。

(4) 言語の文化進化は「思考の言語」と「伝達の言語」の相互依存的進化であることを指摘し、名詞格変化や動詞屈折等に見られる機能範疇の歴史的発達（文法化）に働く自然選択と遺伝的浮動に類似したメカニズムを明らかにした。さらに、主に英語完了構文における助動詞選択の問題に言語の文化進化の視点から取り組み、EEBO、COHA、Google Booksなどの通時的コーパスを利用して助動詞選択における進化的駆動力について計量的分析を行った。結果、浮動よりも自然選択的メカニズムがより強く働くことを論証した。

(5) 併合の理論的精緻化とその神経基盤の同定を進め、統語演算の中枢として左下前頭回の関与を明らかにした。これまで、併合が言語専用の領域固有の機能であるか否かをめぐって見解の相違があったが、領域一般的な機能をルーツとしながら、進化ないし発達の過程を通じて領域固有性が出現するという新たな見解を提起した。これはダーウィンの「変化を伴う由来」という進化観に即した見方であり、より自然な言語進化観の確立をもたらすものである。

この最後の論点は、言語の階層構造を生む併合という生成文法の知見を、言語専用ではない一般的認知機能からの言語の成立を唱える認知言語学の視点の中に取り込むという効果を有しており、生成文法と認知言語学を融合するという本研究の主要目的は達成できたといえる。また階層性と意図共有の統合理解については、両者に共通する認知基盤として、複数の選択肢に同時に注意を払い、切り替えを行う「多重注意」(multiple attention) の能力の存在がそのカギを握っており、ヒト独自の共創的言語コミュニケーションをもたらしたという知見を得た(図2)。さらにこの多重注意はヒトの自己家畜化に由来するという着想を得、より包括的な言語進化モデルを構築する可能性を拓くことができた。

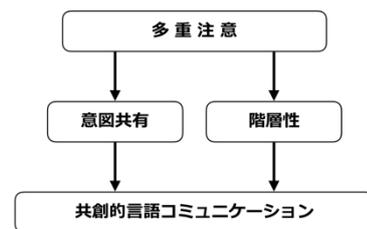


図2 多重注意から共創的コミュニケーションへ

領域全体で開催した各種イベントとは別に、本研究独自でも国際シンポジウムや講演会を多数開催しており、研究成果の社会一般への発信も積極的に行った。特に、2022年9月に本領域が金沢で開催した国際会議 JCoLE (Joint Conference on Language Evolution)、および同年9月～11月に国立民族学博物館で開催された特別展「Homo loquens シャベるヒト～ことばの不思議を科学する～」では、本研究の成果も多数披露された(図3, 4)。領域および本研究では若手育成にも積極的に取り組んだが、領域内に組織された「若手の会」を中心とする論文集(岡ノ谷・藤田編『言語進化学の未来を共創する』ひつじ書房 2022)の出版も本研究の大きな成果の一つである。



図3 JCoLEの様相



図4 民博特別展 展示物

<引用文献>

Fujita, K. 2017. On the parallel evolution of syntax and lexicon: A Merge-only view. *Journal of Neurolinguistics* 43, 178-192.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計74件（うち査読付論文 63件 / うち国際共著 15件 / うちオープンアクセス 30件）

1. 著者名 Fujita K, Koda H, & Suzuki T.N.	4. 巻 --
2. 論文標題 Human language and animal cognition	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 K. Grohmann & E. Leivada eds. The Cambridge Handbook of Minimalism	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Benitez-Burraco A, Fujita K, Hoshi K, & Progovac L	4. 巻 --
2. 論文標題 Biology, genetics and evolution	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 K. Grohmann & E. Leivada eds. The Cambridge Handbook of Minimalism	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 藤田耕司	4. 巻 --
2. 論文標題 名著解題Berwick, Robert C. and Noam Chomsky (2016) Why Only Us: Language and Evolution	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 遊佐典昭 他 編『言語理論・言語獲得理論から見たキータームと名著解題』	6. 最初と最後の頁 123-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田耕司	4. 巻 --
2. 論文標題 併合の漸進進化を巡る考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小川芳樹 他 編『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論 3』	6. 最初と最後の頁 414-428
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田耕司	4. 巻 --
2. 論文標題 階層性と意図共有を繋ぐ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岡ノ谷一夫・藤田耕司 編『言語進化学の未来を共創する』	6. 最初と最後の頁 263-273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujita H & Fujita K	4. 巻 63
2. 論文標題 Human language evolution: A view from theoretical linguistics on how syntax and the lexicon first came into being	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 403-415
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-021-00891-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤田耕司	4. 巻 39
2. 論文標題 言語進化の謎に挑む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 総人・人環フォーラム	6. 最初と最後の頁 7-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 谷口一美	4. 巻 22
2. 論文標題 中間構文のダイナミズム：言語獲得、構文変化の観点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本認知言語学会論文集	6. 最初と最後の頁 354-365
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka S	4. 巻 25
2. 論文標題 Vowel coalescence as head-dependent Merge	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Phonological Studies	6. 最初と最後の頁 77-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Alderete J, Chang Q, & Tanaka S	4. 巻 161
2. 論文標題 The morphology of Cantonese "changed tone": Extensions and limitations	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Gengo Kenkyu	6. 最初と最後の頁 139-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 田中伸一	4. 巻 37
2. 論文標題 音韻素性の存在根拠を再考する：規則の定式化と言語進化の観点から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本エドワード・サピア協会研究年報	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中伸一	4. 巻 40
2. 論文標題 『見えない形態素』をめぐる音韻現象：その理論分析モデルと英語音韻論・形態論への意味合い	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 JELS	6. 最初と最後の頁 138-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nasukawa K & Tanaka S	4. 巻 --
2. 論文標題 Challenging a widely-accepted account of vowel metathesis in Nagoya Japanese with no reference to precedence	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Evolution of Language: Proceedings of the Joint Conference on Language Evolution	6. 最初と最後の頁 550-552
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hosaka M	4. 巻 7
2. 論文標題 On the derivation of the three-verb clusters in Old English	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of the Linguistic Society of America	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3765/plsa.v7i1.5215	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田真理・岩下千咲	4. 巻 26
2. 論文標題 子音の音韻素性がオノマトペの音象徴に与える影響：SD法と因子分析を用いた研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 音韻研究	6. 最初と最後の頁 43-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gallagher D, Yano M, & Ohta S	4. 巻 --
2. 論文標題 The neurophysiological modality effect in native and second language processing: An ERP study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 bioRxiv	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/2022.12.17.520859	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Gallagher D., Matsumoto K, & Ohta S	4. 巻 --
2. 論文標題 Causal evidence for the involvement of Broca 's area in second language acquisition: A longitudinal HD-tDCS study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 bioRxiv	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/2022.12.19.520902	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tancredi C, Hoshi K, & Grosu A	4. 巻 93
2. 論文標題 The syntax and semantics of Japanese internally- and doubly-headed relatives	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Glossa	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.16995/glossa.5887	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Benitez-Burraco A, Fujita K, Hoshi K, & Progovac L	4. 巻 12
2. 論文標題 Editorial: The biology of language under a minimalist lens: Promises, achievements, and limits	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2021.654768	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Murphy E, Hoshi K, & Benitez-Burraco A	4. 巻 62
2. 論文標題 Subcortical syntax: Reconsidering the neural dynamics of language	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Neurolinguistics	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jneuroling.2022.101062	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tanaka K, Nakamura I, Ohta, S, Fukui, N, Zushi M, Narita, H, & Sakai, K.L.	4. 巻 10
2. 論文標題 Merge-generability as the key concept of human language: Evidence from neuroscience	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2019.02673	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asano R, Lo V, & Brown S	4. 巻 5
2. 論文標題 The neural basis of tonal processing in music: An ALE meta-analysis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Music & Science	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/205920432211099	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Asano R	4. 巻 63
2. 論文標題 The evolution of hierarchical structure building capacity for language and music: a bottom-up perspective	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 417-428
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-021-00905-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asano R, Boeckx C, & Fujita, K	4. 巻 154
2. 論文標題 Moving beyond domain-specific versus domain-general options in cognitive neuroscience	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cortex	6. 最初と最後の頁 259-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cortex.2022.05.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Asano R, Boeckx C, & Seifert U	4. 巻 216
2. 論文標題 Hierarchical control as a shared neurocognitive mechanism for language and music	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cognition	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cognition.2021.104847	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hilton C, Asano R, & Boeckx C	4. 巻 44
2. 論文標題 Why musical hierarchies?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Behavioral and Brain Sciences	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0140525X20001338	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 O'Rourke T, Martins T, Asano R, Tachibana R, Okanoya K, & Boeckx C	4. 巻 25
2. 論文標題 Capturing the effects of domestication on vocal learning complexity	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Trends in Cognitive Sciences	6. 最初と最後の頁 462-474
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.tics.2021.03.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 本多啓	4. 巻 73
2. 論文標題 可能表現と原因帰属	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神戸外大論叢	6. 最初と最後の頁 93-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多啓	4. 巻 6
2. 論文標題 特殊仕様を表す英語中間構文	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 認知言語学研究	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多啓	4. 巻 74
2. 論文標題 試論：認知主義の認知意味論と非認知主義の認知意味論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神戸大論叢	6. 最初と最後の頁 79-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田耕司	4. 巻 9
2. 論文標題 階層的シンタクスと(自己)家畜化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史言語学	6. 最初と最後の頁 65-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujita H	4. 巻 2
2. 論文標題 Co-evolution of internalization and externalization in the emergence of the human lexicon: A perspective from generative grammar and cognitive linguistics	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Evolutionary Linguistic Theory	6. 最初と最後の頁 195-215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/elt.00022.fuj	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Taniguchi K	4. 巻 37
2. 論文標題 Gibbs, Raymond W. Jr. (2017) Metaphor Wars: Conceptual Metaphors in Human Life. (Review)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 English Linguistics	6. 最初と最後の頁 124-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 保坂道雄・奥田慎平・笹原和俊	4. 巻 9
2. 論文標題 ことばの変化と進化：英語の完了構文の盛衰をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史言語学	6. 最初と最後の頁 111-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohta S	4. 巻 37
2. 論文標題 Why Only Us: Language and Evolution By Robert C. Berwick and Noam Chomsky (Review)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 English Linguistics	6. 最初と最後の頁 101-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohta S, Koizumi M & Sakai K.L.	4. 巻 --
2. 論文標題 Dissociating effects of scrambling and topicalization within the left frontal and temporal language areas: An fMRI study in Kaqchikel Maya	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Gallego A.J. & Irurtzun A (eds.), Approaches to Language: Data, Theory, and Explanation	6. 最初と最後の頁 28-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Grosu A & Hoshi K	4. 巻 128
2. 論文標題 Japanese internally-headed and doubly-headed relative constructions, and a comparison of two approaches	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glossa	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5334/gjgl.1035	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 藤田耕司	4. 巻 41
2. 論文標題 コミュニケーションを超える人間言語	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nextcom	6. 最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kashiwadate, Kei, Tetsuya Yasuda, Koji Fujita, Sotaro Kita, Harumi Kobayashi	4. 巻 11
2. 論文標題 Syntactic Structure Influences Speech-Gesture Synchronization	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Letters on Evolutionary Behavioral Science	6. 最初と最後の頁 10-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5178/lebs.2020.73	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 藤田耕司	4. 巻 --
2. 論文標題 階層性と意図共有に共通する認知基盤	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本認知科学会第36回大会発表論文集	6. 最初と最後の頁 1005-1007
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujita, Koji	4. 巻 15
2. 論文標題 Syntax, Cooperation and Self-Domestication	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Cognitive Linguistics Conference 15 Book of Abstracts	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Taniguchi, Kazumi	4. 巻 15
2. 論文標題 On the Emergence of Grammar and Image Schemas: A Cognitive Linguistic View	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Cognitive Linguistics Conference 15 Book of Abstracts	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hosaka, Michio, Shinpei Okuda & Kazutoshi Sasahara	4. 巻 13
2. 論文標題 Evolutionary forces in the development of the English perfect construction	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proc. of Evolang 13	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 保坂道雄	4. 巻 35
2. 論文標題 書評: Summerer, Lotte (2018) Article Emergence in Old English (De Gruyter Mouton)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in Medieval English Language and Literature	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Osada, T., S. Ohta, S. A. Ogawa, M. Tanaka, A. Suda, K. Kamagata, M. Hori, S. Aoki, Y. Shimo, N. Hattori, T. Shimizu, H. Enomoto, R. Hanajima, Y. Ugawa & S. Konishi	4. 巻 39
2. 論文標題 An essential role of intraparietal sulcus in response inhibition predicted by parcellation-base network	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Neuroscience	6. 最初と最後の頁 2509-2521
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1523/JNEUROSCI.2244-18.2019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka, K., I. Nakamura, S. Ohta, N. Fukui, M. Zushi, H. Narita & K.L. Sakai	4. 巻 10
2. 論文標題 Merge-generability as the key concept of human language: Evidence from neuroscience	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2019.02673	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 太田真理	4. 巻 22
2. 論文標題 言語野における文法の計算原理：fMRIによる統辞操作の検証	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 音韻研究	6. 最初と最後の頁 147-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohta, Shinri	4. 巻 27
2. 論文標題 Review: Why Only Us: Language and Evolution, by Berwick, Robert C. and Noam Chomsky	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 English Linguistics	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴岡慶雅・酒井邦嘉・福井直樹（司会：辻子美保子）	4. 巻 95
2. 論文標題 巻頭座談会：AIは人間の脳を超えられるか 言語とゲームから深く考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神奈川大学評論	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hoshi, Koji	4. 巻 13
2. 論文標題 More on the relations among categorization, Merge and labeling, and their nature	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Biolinguistics	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hoshi, Koji	4. 巻 15
2. 論文標題 A Possible Link between Cognitive Linguistics and the Lennebergian View on Biological Evolution of Language	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Cognitive Linguistics Conference 15 Book of Abstracts	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Endo, Tomoko & Daisuke Yokomori	4. 巻 25
2. 論文標題 Interactional functions of verbalizing troubles: Self-addressed questions in Japanese conversation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of 25th Japanese/Korean Linguistics	6. 最初と最後の頁 327-339
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rie, Asano	4. 巻 13
2. 論文標題 Evolution of language syntax and musical rhythm: Flexible motor and cognitive control	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proc. of Evolang 13	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Rie, Asano	4. 巻 13
2. 論文標題 Cortico-subcortical timing systems in syntactic processing of music and language	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proc. of Evolang 13	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koji Fujita	4. 巻 12
2. 論文標題 Non-communicative functions can be equally important for studies of language evolution	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Evolution of Language: Proc. of the 12th International Conference	6. 最初と最後の頁 131-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.12775/3991-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤田耕司	4. 巻 --
2. 論文標題 人類の知性の原点 言語が出現した謎に迫る	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 全・地球学 1996-2017 フォーラム「地球学の世紀」22年 134人の知の試み	6. 最初と最後の頁 460-461
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福井直樹	4. 巻 33
2. 論文標題 生成文法 of 思想	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Southern Review	6. 最初と最後の頁 5-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口一美	4. 巻 18
2. 論文標題 英語の状態変化表現の獲得 身体性とインタラクションの観点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本認知言語学会論文集	6. 最初と最後の頁 549-554
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Michio Hosaka	4. 巻 1
2. 論文標題 Micro vs. macro evolution of language	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Hawaii University International Conference on Arts, Humanities, Social Sciences and Education 2018 Proceedings	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多啓	4. 巻 69
2. 論文標題 英語中間構文と反使役化--初谷論文への回答--	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸外大論叢	6. 最初と最後の頁 27-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 T. Osada, Shinri Ohta et al.	4. 巻 in press
2. 論文標題 Essential role of intraparietal sulcus in response inhibition predicted by parcellation-base network	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Neuroscience	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1523/JNEUROSCI.2244-18.2019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rie Asano, Uwe Seifert	4. 巻 12
2. 論文標題 Commentary: The evolution of musicality: What can be learned from language evolution research?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Frontiers in Neuroscience	6. 最初と最後の頁 640
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnins.2018.00640	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Genta Toya, Rie Asano, Takashi Hashimoto	4. 巻 28
2. 論文標題 Neural implementation and evolutionary simulation of building hierarchical structure	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Proceedings of the 28th Annual Conference of the Japanese Neural Network Society	6. 最初と最後の頁 160-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Genta Toya, Rie Asano, Takashi Hashimoto	4. 巻 --
2. 論文標題 Building hierarchical structure: Its functional model and evolutionary simulation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Program and Abstract Booklet of EVOSLACE	6. 最初と最後の頁 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koji Fujita	4. 巻 43B
2. 論文標題 On the parallel evolution of syntax and lexicon: A Merge-only view	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Neurolinguistics	6. 最初と最後の頁 178-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jneuroling.2016.05.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shin-ichi Tanaka	4. 巻 21
2. 論文標題 The shape and function of phonology in evolutionary linguistics: Why we can explore language origins from extant languages, and how	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of the Phonetic Society of Japan	6. 最初と最後の頁 88-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24467/onseikenkyu.21.1_12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shin-ichi Tanaka	4. 巻 21
2. 論文標題 Why now is the time to do phonetics/phonology in evolutionary linguistics	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of the Phonetic Society of Japan	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24467/onseikenkyu.21.1_12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shinri Ohta, Naoki Fukui, Kuniyoshi L. Sakai	4. 巻 --
2. 論文標題 Syntactic computation in the human brain: The degree of merger as a key factor	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Merge in the Mind-Brain: Essays on Theoretical Linguistics and the Neuroscience of Language	6. 最初と最後の頁 181-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinri Ohta, Naoki Fukui, Kuniyoshi L. Sakai	4. 巻 --
2. 論文標題 Computational principles of syntax in regions specialized for language: Integrating theoretical linguistics and functional neuroimaging	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Merge in the Mind-Brain: Essays on Theoretical Linguistics and the Neuroscience of Language	6. 最初と最後の頁 237-264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 保坂道雄	4. 巻 --
2. 論文標題 機能範疇創発のメカニズム	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本英文学会第89回大会Proceedings	6. 最初と最後の頁 103-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多啓	4. 巻 42
2. 論文標題 英語における他動詞由来の主体移動表現について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ENERGEIA	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinri Ohta, Masatoshi Koizumi, Kuniyoshi L. Sakai	4. 巻 8
2. 論文標題 Dissociating effects of scrambling and topicalization within the left frontal and temporal language areas: An fMRI study in Kaqchikel Maya	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 88-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2017.00748	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kyohai Tanaka, Shinri Ohta, Ryuta Kinno, Kuniyoshi L. Sakai	4. 巻 93
2. 論文標題 Activation changes of the left inferior frontal gyrus for the factors of construction and scrambling in a sentence	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the Japan Academy, Series B	6. 最初と最後の頁 511-522
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2183/pjab.93.031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 外谷弦太・浅野莉絵・橋本敬	4. 巻 --
2. 論文標題 2つの再帰「階層的埋め込み」「自己参照」: その適応的機能の差異とヒトにおける実現	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本認知科学会第34回大会(JCSS2017)予稿集	6. 最初と最後の頁 622-624
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計182件 (うち招待講演 73件 / うち国際学会 84件)

1. 発表者名 藤田耕司
2. 発表標題 言語進化学から見た生成文法
3. 学会等名 上智大学言語学講演会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Fujita K
2. 発表標題 Multiple attention underpins the co-evolution of thought and communication
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fujita K
2. 発表標題 Structure dependence and language evolution
3. 学会等名 Global Initiative for Academic Networks (GIAN) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fujita K
2. 発表標題 Is Universal Grammar dead?
3. 学会等名 Global Initiative for Academic Networks (GIAN) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fujita K
2. 発表標題 Rethinking the species-specificity and domain-specificity of human language
3. 学会等名 Global Initiative for Academic Networks (GIAN) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fujita K
2. 発表標題 Hierarchical structure building across different cognitive domains
3. 学会等名 Global Initiative for Academic Networks (GIAN) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fujita K
2. 発表標題 Language evolution and human domestication
3. 学会等名 Global Initiative for Academic Networks (GIAN) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fujita K
2. 発表標題 Biolinguistic analyses of linguistic phenomena
3. 学会等名 Global Initiative for Academic Networks (GIAN) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fujita K
2. 発表標題 Syntax and motor planning
3. 学会等名 Global Initiative for Academic Networks (GIAN) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fujita K
2. 発表標題 The evolution of hierarchical syntax
3. 学会等名 Global Initiative for Academic Networks (GIAN) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fujita K
2. 発表標題 Animal communication and human language
3. 学会等名 Global Initiative for Academic Networks (GIAN) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fujita K
2. 発表標題 Minimalism and language evolution
3. 学会等名 Global Initiative for Academic Networks (GIAN) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fujita K
2. 発表標題 Generative enterprise and biolinguistics
3. 学会等名 Global Initiative for Academic Networks (GIAN) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fujita K
2. 発表標題 Introduction to biolinguistics and evolutionary linguistics
3. 学会等名 Global Initiative for Academic Networks (GIAN) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤田耕司
2. 発表標題 言語の起源と進化
3. 学会等名 大阪教育大学グローバル言語学入門特別講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤田耕司
2. 発表標題 人間言語のルーツを求めて
3. 学会等名 京都大学総合人間学部オープンキャンパス
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷口一美
2. 発表標題 中間構文のダイナミズム：言語獲得、構文変化の観点から
3. 学会等名 日本認知言語学会第22回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中伸一
2. 発表標題 『見えない形態素』をめぐる音韻現象：その理論分析モデルと英語音韻論・形態論への意味合い
3. 学会等名 日本英語学会第40回大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中伸一
2. 発表標題 広東語の変音現象の無秩序な歴史変化：3つの接辞付加法による統一的説明
3. 学会等名 日本英語学会第40回大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中伸一
2. 発表標題 音韻素性の存在根拠を再考する：規則の定式化と言語進化の観点から
3. 学会等名 日本エドワード・サビア協会第37回研究発表会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nasukawa K & Tanaka S
2. 発表標題 Challenging a widely-accepted account of vowel metathesis in Nagoya Japanese with no reference to precedence
3. 学会等名 Joint Conference on Language Evolution（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中伸一
2. 発表標題 素性がエLEMENTか：母音融合の理論的・経験的再再検証
3. 学会等名 日本音韻論学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中伸一
2. 発表標題 音韻文法の構築をめぐる3つの問題 音韻論の基本から最先端のトピックへ
3. 学会等名 福岡大学大学院人文学研究科講演会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hosaka M
2. 発表標題 On the derivation of the three-verb clusters in Old English
3. 学会等名 The 96th Annual Meeting of the Linguistic Society of America (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 保坂道雄
2. 発表標題 機能範疇の創発原理
3. 学会等名 日本英文学会第93回大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ohta S
2. 発表標題 Modulating neural activation in the language areas: A transcranial electrical stimulation study
3. 学会等名 SNU Linguistic Colloquium (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ohta S
2. 発表標題 Functional and anatomical reorganization of language-related networks caused by a left frontal glioma
3. 学会等名 Seminar at the University of Georgia (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ohta S
2. 発表標題 Introduction to neurolinguistics I: Experimental methods in neurolinguistics
3. 学会等名 Seminar at Dongguk University (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yamada E & Ohta S
2. 発表標題 The modulation of alpha and beta oscillation in semantic prediction
3. 学会等名 Seminar at Dongguk University (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Gallagher D.C. & Ohta S
2. 発表標題 Non-invasive brain stimulation & second language acquisition
3. 学会等名 Seminar at Dongguk University (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nakajima J & Ohta S
2. 発表標題 Visual recognition of complex words: An ERP experiment in Japanese
3. 学会等名 Seminar at Dongguk University (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ohta S
2. 発表標題 Electrical stimulation of the brain can help you learn foreign languages!? An examination of foreign language learning using transcranial electrical stimulation
3. 学会等名 Japanese Association of Scholars in Science Meeting (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ohta S
2. 発表標題 Investigating the neural basis of Merge
3. 学会等名 Seminar at University of Southern California (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ohta S
2. 発表標題 Selective facilitation of syntactic processing by transcranial electrical stimulation over the left inferior frontal cortex
3. 学会等名 Seminar at Max Planck Institute for Human Cognitive and Brain Sciences (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Gallagher D C, Matsumoto K & Ohta S
2. 発表標題 Effects of left inferior prefrontal cortex anodal stimulation on second language acquisition
3. 学会等名 NEURO2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 言語学と脳科学の共同研究には何が足りないか？
3. 学会等名 日本言語学会第164回大会公開特別シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 理論言語学と実験脳科学で言語の脳内メカニズムを解明する
3. 学会等名 同志社大学文化情報学研究科共通シンポジウム：言語研究の方法：理論と実験 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 脳科学実験で言語理論を実証する！
3. 学会等名 山口大学時間学研究所時間学特別セミナー (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田真理・田中颯真・山田絵美
2. 発表標題 ミスマッチ陰性電位による連濁の神経基盤の検討：ライマンの法則の違反と音韻的逸脱は異なるか？
3. 学会等名 日本言語学会第164回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 向野隆彦・太田真理 他
2. 発表標題 海馬回旋異常における構造的MRIの特徴の検討
3. 学会等名 第55回日本てんかん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島潤・太田真理
2. 発表標題 意味処理を反映する事象関連電位N400にマスク下プライミングが与える影響
3. 学会等名 日本言語学会第165回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田絵美・府内京香・太田真理・重藤寛史
2. 発表標題 高密度経頭蓋直流電気刺激法を用いた言語機能抑制効果の検討
3. 学会等名 第52回日本臨床神経生理学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nakajima J & Ohta S
2. 発表標題 Modulation of the N400 by morphological complexity of words: An ERP study of Japanese derived nouns
3. 学会等名 NEURO2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mukai T, Ohta S, et al.
2. 発表標題 The imaging characteristics of incomplete hippocampal inversion
3. 学会等名 14th Asian & Oceanian Epilepsy Congress (AOEC 2022) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 脳科学実験で言語の謎に迫る！ 九大太田研の紹介
3. 学会等名 言語学フェス2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島潤・太田真理
2. 発表標題 語の形態的複雑さが事象関連電位N400に与える影響
3. 学会等名 言語学フェス2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中颯真・太田真理
2. 発表標題 ミスマッチ陰性電位を用いた連濁の神経基盤の検討 日本語複合語における音韻的逸脱と本居・ライマンの法則違反の差異
3. 学会等名 言語学フェス2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nakajima J & Ohta S
2. 発表標題 Decompositional similarities between semantically transparent and lexicalized suffixation in Japanese: An ERP study
3. 学会等名 International Symposium on Issues in Japanese Psycholinguistics from Comparative Perspectives (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ohta S & Oishi W
2. 発表標題 Selective modulation of sentence comprehension by tACS over the left inferior frontal cortex
3. 学会等名 Architectures and Mechanisms for Language Processing, 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ohta S & Oishi W
2. 発表標題 Selective disruption of sentence comprehension by transcranial alternating current stimulation over the left inferior frontal cortex
3. 学会等名 13th Meeting of the Society for the Neurobiology of Language (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakajima J & Ohta S
2. 発表標題 Modulation of the N400 by morphological composition and lexical access: An ERP study of Japanese derived nouns
3. 学会等名 13th Meeting of the Society for the Neurobiology of Language (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 神経科学者から見た脳活動データ解析のこれまでとこれから
3. 学会等名 2021年度統計データサイエンス研究集会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 左下前頭皮質への経頭蓋電気刺激による文理解の促進効果の検討
3. 学会等名 日本言語学会第162回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田絵美・梁井一樹・重藤寛史・太田真理
2. 発表標題 単語の意味予測において注意が ・ 振動を変調する: 脳磁図による検討
3. 学会等名 第51回日本臨床神経生理学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ohta S
2. 発表標題 Selective facilitation of sentence comprehension by tACS over the left inferior frontal region
3. 学会等名 The 44th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakajima J & Ohta S
2. 発表標題 Modulation of the N170 ERP component by morphological decomposition: An ERP study of Japanese derived nouns
3. 学会等名 The 44th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yamada E, Yanai K, Shigeto, H, & Ohta S
2. 発表標題 Attention modulates the alpha and beta oscillations during semantic prediction
3. 学会等名 The 44th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 経頭蓋電気刺激と脳波を組み合わせた言語の神経基盤の探究
3. 学会等名 第3回オンラインポスターセッション：研究を広げる・研究を変える・研究をつなげる
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 言語の脳科学：言語学×脳科学で言語の謎に迫る
3. 学会等名 ARCHLEV TECH EXPO 2021 人工食肉からソフトロボットまで
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本多啓
2. 発表標題 無標識可能表現としての中間構文--アフォーダンス、エフェクティヴィティ、原因帰属--
3. 学会等名 日本認知言語学会第22回全国大会シンポジウム「構文と捉え方--英語中間構文を巡って」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toya G, Asano R, & Hashimoto T
2. 発表標題 Computational neurocognitive modelling of recursive combinatorial ability
3. 学会等名 Leipzig Lectures on Language Combinatorics 2021. End-of-Year Symposium (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Asano R
2. 発表標題 Evolution of cognitive control underlying language syntax and musical rhythm
3. 学会等名 Protolang 7 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤田耕司
2. 発表標題 併合の漸進進化を巡る考察
3. 学会等名 東北大学大学院情報科学研究科言語変化・変異研究ユニット主催連続講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤田耕司
2. 発表標題 言語の起源と進化
3. 学会等名 大阪教育大学グローバル言語学入門特別講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本祐誠・藤野博・松井智子・小林春美・藤田耕司・東條吉邦・計野浩一郎
2. 発表標題 ASD 児における指示が不透明な文の理解と視点取得の関係
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tanaka S
2. 発表標題 Structural ambiguity below the word: The origins of phonological hierarchy through category formation
3. 学会等名 Tokyo Circle of Phonologists
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Okuda S, Hosaka M & Sasahara K
2. 発表標題 Quantifying cultural evolution of language using large-scale corpora
3. 学会等名 The 6th International Conference on Computational Social Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Okuda S, Hosaka M & Sasahara K
2. 発表標題 Evolutionary forces in the development of the English perfect construction
3. 学会等名 6th International Conference on Computational Social Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥田慎平・保坂道雄・笹原和俊
2. 発表標題 大規模複数コーパスを用いた言語の文化進化の定量化
3. 学会等名 人工知能学会全国大会 (第34回)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hosaka M, Okuda S & Sasahara K
2. 発表標題 Evolutionary forces in the development of the English perfect construction
3. 学会等名 The 13th International Conference on the Evolution of Language (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ohta S & Maeno K
2. 発表標題 Transcranial direct current stimulation over the left inferior frontal gyrus modulates syntactic processing
3. 学会等名 The 43rd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (NEURO2020) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ohta, S
2. 発表標題 Selective modulation of syntactic processing by anodal tDCS over the left inferior frontal region
3. 学会等名 The 34th CUNY Conference on Human Sentence Processing (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ohta, S
2. 発表標題 Know Thyself: Why we should study language and the brain, In Brain Science and Reasoning
3. 学会等名 The Networking Platform for Co-creating Research (ENCORE) Interdisciplinary Networking Workshop (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Gallagher D.C., Yano M & Ohta, S
2. 発表標題 Modality effects in morphosyntactic and orthographic/phonological violation processing: Preliminary ERP results of native Spanish speakers
3. 学会等名 第6回坂本勉記念神経科学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山口航輝・太田真理
2. 発表標題 空範疇の処理に関するERP研究
3. 学会等名 第6回坂本勉記念神経科学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田絵美・太田真理
2. 発表標題 単語を予期している時の神経振動
3. 学会等名 第6回坂本勉記念神経科学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ohta S & Maeno, K
2. 発表標題 Facilitation of syntactic processing by anodal tDCS over the left inferior frontal gyrus
3. 学会等名 12th Meeting of the Society for the Neurobiology of Language (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Gallagher D.C., Yano M & Ohta, S
2. 発表標題 The L1 & L2 syntactic P600 across visual & auditory modalities: Preliminary ERP findings
3. 学会等名 12th Meeting of the Society for the Neurobiology of Language (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 脳機能イメージングによる言語の神経基盤の研究：九大太田研の紹介
3. 学会等名 言語学フェス2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Gallagher D.C., Yano M & Ohta, S
2. 発表標題 Modality effects in processing misspelling and mispronunciations: Preliminary ERP results of native Spanish speakers
3. 学会等名 言語学フェス2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島潤・太田真理
2. 発表標題 事象関連電位N170を指標とした派生名詞の形態分割処理の検討
3. 学会等名 言語学フェス2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山口航輝・太田真理
2. 発表標題 コントロールの移動分析に対する脳波を用いた検討
3. 学会等名 言語学フェス2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Fujita, Koji
2. 発表標題 From action to syntax: some evolutionary considerations
3. 学会等名 NII Shonan Meeting Seminar 141: Language as goal-directed sequential behavior: computational theories, brain mechanisms, evolutionary roots (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fujita, Koji
2. 発表標題 Where did Merge come from? A sensorimotor basis of hierarchical structure building
3. 学会等名 The 3rd Crete Summer School of Linguistics (CreteLing2019) Workshop “Human Language in Evolution: Some Key Perspectives” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fujita, Koji
2. 発表標題 Syntax, cooperation and self-domestication
3. 学会等名 ICLC 15 Theme Session “Evolinguistics: Where Cognitive Linguistics and Generative Grammar Meet” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田耕司
2. 発表標題 階層性と意図共有に共通する認知基盤
3. 学会等名 日本認知科学会第36回大会オーガナイズドセッション『言語コミュニケーションにおける階層性と意図共有の統合～人間性の進化的理解へ向けて～』(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田耕司
2. 発表標題 階層的シンタクスと(自己)家畜化
3. 学会等名 日本歴史言語学会2019年大会シンポジウム『進化言語学への招待』(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本祐誠・藤野博・松井智子・小林春美・藤田耕司・東條吉邦・計野浩一郎
2. 発表標題 ASD 児における指示が不透明な文の理解と視点取得の関係
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tanaka, Shin-ichi
2. 発表標題 Structural Ambiguity Below the Word: The Origins of Phonological Hierarchy through Category Formation
3. 学会等名 The monthly meeting of Tokyo Circle of Phonologists
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tanaka, Shin-ichi
2. 発表標題 On the Three Geneses of Syllable Structure: A Perspective from Minimalist Phonology
3. 学会等名 Public Lecture on "Relational Properties in Phonology" (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tanaka, Shin-ichi
2. 発表標題 From Substance to Computation: The Role and Nature of Phonology in Evo-Linguistics
3. 学会等名 The monthly meeting of Tokyo Circle of Phonologists
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taniguchi, Kazumi
2. 発表標題 Sharing patterns, sharing intention: A view from dialogic syntax
3. 学会等名 Evolinguistics Workshop 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taniguchi, Kazumi
2. 発表標題 On the emergence of grammar and image schemas: A cognitive linguistic view
3. 学会等名 ICLC 15 Theme Session "Evolinguistics: Where Cognitive Linguistics and Generative Grammar Meet" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥田慎平・保坂道雄・笹原和俊
2. 発表標題 英語の完了構文の進化ダイナミクス：複数の大規模コーパスを用いた検討
3. 学会等名 日本人間行動進化学会第12回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 保坂道雄・笹原和俊・奥田慎平
2. 発表標題 ことばの変化と進化 文化進化の事例研究
3. 学会等名 日本歴史言語学会2019年大会シンポジウム『進化言語学への招待』（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Okuda, Shinpei, Michio Hosaka & Kazutoshi Sasahara
2. 発表標題 Evolutionary forces in the development of the English perfect construction
3. 学会等名 25th International Symposium on Artificial Life and Robotics (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hosaka, Michio
2. 発表標題 The emergence of functional projections in the history of English
3. 学会等名 Hawaii International Conference on English Language and Literature Studies (HICELLS) 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hosaka, Michio, Shinpei Okuda & Kazutoshi Sasahara
2. 発表標題 Evolutionary forces in the development of the English perfect construction
3. 学会等名 Evolang 13 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ohta, S., Y. Oseki & A. Marantz
2. 発表標題 Morphological decomposition of morphologically complex verbs in Japanese: An MEG study
3. 学会等名 Neuroscience of Language Conference (NEUROLANG-AD 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 文系学生に対する数理データサイエンス教育の実践：実験言語学を例に
3. 学会等名 TOGAKU Theoretical Linguistic Colloquium (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Osada, T., S. Ohta, A. Ogawa, M. Tanaka, A. Suda, K. Kamagata, M. Hori, S. Aoki, Y. Shimo, N. Hattori, T. Shimizu, H. Enomoto, R. Hanajima, Y. Ugawa & S. Konishi
2. 発表標題 Necessity of the posterior parietal cortex in response inhibition revealed by fMRI and TMS
3. 学会等名 25th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping (OHBM 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ohta, S., Y. Oseki & A. Marantz
2. 発表標題 Morphological, but not orthographic, decomposition of morphologically complex verbs in Japanese: An MEG study
3. 学会等名 Psycholinguistics in Iceland Parsing and Prediction (PIPP2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田真理・大関洋平・アレック マランツ
2. 発表標題 形態素への分割は左紡錘状回・下側頭回の活動を選択的に変化させる：日本語動詞の脳磁図研究
3. 学会等名 日本言語学会第158回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ohta, S.
2. 発表標題 Contribution of Brain Science to Language Science: Functional neuroimaging as a tool for testing/generating linguistic hypotheses
3. 学会等名 JSL2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Osada, T., S. Ohta, A. Ogawa, M. Tanaka, A. Suda, K. Kamagata, M. Hori, S. Aoki, Y. Shimo, N. Hattori, T. Shimizu, H. Enomoto, R. Hanajima, Y. Ugawa & S. Konishi
2. 発表標題 Causal role of the posterior parietal cortex for response inhibition revealed by fMRI and TMS
3. 学会等名 The 42nd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (NEURO2019)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ohta, S., Y. Oseki & A. Marantz
2. 発表標題 Selective modulation of left inferior temporal activation by morphological decomposition: An MEG study of Japanese verbs
3. 学会等名 The 42nd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (NEURO2019)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Ohta, S., Y. Oseki & A. Marantz
2 . 発表標題 Disentangling morphological processing and letter recognition: An MEG study of Japanese verbs
3 . 学会等名 11th Annual Meeting of the Society for the Neurobiology of Language (SNL2019) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Osada, T., S. Ohta, A. Ogawa, M. Tanaka, A. Suda, K. Kamagata, M. Hori, S. Aoki, Y. Shimo, N. Hattori, T. Shimizu, H. Enomoto, R. Hanajima, Y. Ugawa & S. Konishi
2 . 発表標題 Essentiality of the intraparietal sulcus for response inhibition revealed by fMRI and TMS
3 . 学会等名 第3回ヒト脳イメージング研究会
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Ohta, S., Y. Oseki & A. Marantz
2 . 発表標題 Dissociating the effects of morphemes and letters in visual word recognition: An MEG study of Japanese verbs
3 . 学会等名 Architectures and Mechanisms of Language Processing, 2019 (AMLaP2019) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Ohta, S., Y. Oseki & A. Marantz
2 . 発表標題 Morpheme processing in the ventral temporal lobe: An MEG study of Japanese verbs
3 . 学会等名 2019 Science of Aphasia XX Conference (SOA XX) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 池内正幸
2. 発表標題 ヒトのことばの起源と進化 その"How?"と"When?"をめぐって
3. 学会等名 青山学院大学言語学講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池内正幸
2. 発表標題 ヒトのことばとは何か？ その個別性と普遍性をめぐって
3. 学会等名 放送大学愛知学習センター講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池内正幸
2. 発表標題 言語の起源・進化研究 最近の動向・試みとChomskyの立ち位置をめぐって
3. 学会等名 慶應言語学コロキウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hoshi, Koji
2. 発表標題 An exploration into the relation between Merge and categorization in evolinguistics
3. 学会等名 Evolinguistics Workshop 2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hoshi, Koji
2. 発表標題 A possible link between cognitive linguistics and the Lennebergian view on biological evolution of language
3. 学会等名 ICLC 15 Theme Session “Evolinguistics: Where Cognitive Linguistics and Generative Grammar Meet” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Endo, Tomoko
2. 発表標題 Membership and participation: Child as a resource for interaction between in-laws in Japanese casual conversation
3. 学会等名 The 15th meeting of International Pragmatics Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤智子
2. 発表標題 英語学習活動の相互行為における知識や理解の交渉：イントロダクション
3. 学会等名 第22回日本語用論学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤智子
2. 発表標題 認識動詞を用いた話し手の態度表明：認識的モダリティと認識的スタンス
3. 学会等名 第37回日本英語学会シンポジウム「モダリティ研究の広がり - 主に認知と談話の観点から - 」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kimoto, Yukinori
2. 発表標題 Reduplication and Pluractionality (distributive) in Arta
3. 学会等名 The 29th Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society (SEALS 29) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kimoto, Yukinori
2. 発表標題 Morphological manifestations of hunter-gatherer lifestyle: Word formations and ethno-semantics in Philippine Negrito languages
3. 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kimoto, Yukinori, Norikazu Kogura & Keita Kurabe
2. 発表標題 Propositional Framing: A preliminary report on Jinghpaw, Sibe, Ilokano, Malay, and Jakarta Indonesian
3. 学会等名 Canberra SCOPIC Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rie, Asano
2. 発表標題 Evolution of syntax in music and language from an action-oriented perspective
3. 学会等名 NII Shonan Meeting Seminar 141: Language as goal-directed sequential behavior: computational theories, brain mechanisms, evolutionary roots (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rie, Asano
2. 発表標題 Syntax in language and music from a perspective of comparative biomusicology
3. 学会等名 Evolinguistics Workshop 2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rie, Asano
2. 発表標題 Evolution of cognitive capacities accounting for hierarchical complexity in music
3. 学会等名 Protolang 6 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toya, Genta, Rie Asano & Takashi Hashimoto
2. 発表標題 Evolution of recursive combination of action representations by rewarding novel tool-making
3. 学会等名 Protolang 6 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toya, Genta, Rie Asano & Takashi Hashimoto
2. 発表標題 Evolutionary scenario of recursive combination from object manipulation to language
3. 学会等名 AROB 2020 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rie, Asano
2. 発表標題 Linking rhythmic syntax and experience of musical time: A mechanistic approach
3. 学会等名 Workshop "Investigating musical time: Syntactic approaches?" (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rie, Asano
2. 発表標題 Evolution of language syntax and musical rhythm: Flexible motor and cognitive control
3. 学会等名 Evolang 13 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Rie, Asano
2. 発表標題 Cortico-subcortical timing systems in syntactic processing of music and language
3. 学会等名 Evolang 13 Workshop "Evolution of the Extended Language System" (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Rie, Asano
2. 発表標題 On the relationship between linguistic syntactic and rhythmic syntactic processing within basal ganglia circuits
3. 学会等名 ELM (Expression, Language, and Music) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Rie, Asano
2. 発表標題 On the relationship between language and music syntactic processing
3. 学会等名 The Neurosciences and Music 7 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田耕司
2. 発表標題 言語と声と音楽：その進化的関係を探る
3. 学会等名 「声の力を学ぶ」連続講座 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koji Fujita
2. 発表標題 Generative grammar from an evolutionary perspective
3. 学会等名 Tokyo Lectures in Evolving Linguistics 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koji Fujita
2. 発表標題 Non-communicative functions can be equally important for studies of language evolution
3. 学会等名 Evolang 12 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2. 発表標題 From substance to computation: The role and nature of phonology in Evo-linguistics
3. 学会等名 Tokyo Circle of Phonologists
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka, John Alderete
2. 発表標題 Opacity in the interaction of Pinjam and Tone Sandhi: Some implications for Cantonese Tonal Phonology
3. 学会等名 Tokyo Circle of Phonologists
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中伸一
2. 発表標題 言語起源から見た音節類型の仮説検証：「貧困のパラドクス」を乗り越えて
3. 学会等名 ことばを考える会第29回例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naoki Fukui
2. 発表標題 On certain (rather fundamental) differences between Fukui and Kuroda
3. 学会等名 九州大学文学部講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福井直樹
2. 発表標題 生成文法 of 思想：自然主義と言語の内在主義
3. 学会等名 沖縄外国文学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazumi Taniguchi
2. 発表標題 Cognitive-linguistic perspectives on aspects of language evolution
3. 学会等名 Tokyo Lectures in Evolving Linguistics 2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Daniel C. Gallagher, Masataka Yano, Shinri Ohta
2. 発表標題 Syntactic and orthographic/phonological violation processing across modalities in native Spanish
3. 学会等名 第4回坂本勉記念神経科学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島潤・矢野雅貴・太田真理
2. 発表標題 日本語形容詞の派生に関する容認度判断実験
3. 学会等名 第4回坂本勉記念神経科学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田真理・大関洋平・Alec Marantz
2. 発表標題 日本語動詞処理の神経基盤：MEG研究
3. 学会等名 第4回坂本勉記念神経科学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 言語の文法を計算する脳内ネットワークの特定
3. 学会等名 九州大学理化学研究所福岡市三者連携シンポジウム：数理・AIが解く未来！～計算科学の展望と期待～
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 Computational principles of syntax in the language areas: Verification of the syntactic operations using fMRI
3. 学会等名 日本音韻論学会2018年度春期研究発表会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 日本語の形態統語処理の神経基盤：脳磁図研究
3. 学会等名 TOGAKU Theoretical Linguistics Colloquium（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 言語をつかさどる脳
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター九州大学文学部提携講座「ことばと人」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 言語獲得・言語学習を支える脳
3. 学会等名 英語音声指導協会2018夏のワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rie Asano
2. 発表標題 Towards a domain-relevant approach to the evolution of language and music
3. 学会等名 Evolang 12(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Genta Toya, Rie Asano, Takashi Hashimoto
2. 発表標題 Building hierarchical structure: Its functional model and evolutionary simulation
3. 学会等名 2018 Conference on Artificial Life(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西本希呼
2. 発表標題 数の認知 - 言語の構造から探る
3. 学会等名 京都大学エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西本希呼
2. 発表標題 概念世界にある数(かず)を具現化する数(すう) - 我々の数の認識の普遍性を探る
3. 学会等名 東京大学理学部生物学科研究室講演会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noa Nishimoto
2. 発表標題 Utilization of biological resources in Southern Madagascar A sketch of the Tandroy Maagasy 's natural expressions
3. 学会等名 World Congress of African Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西本希呼
2. 発表標題 消えゆく数文化のドキュメンテーション(1) 生物は何を何のために分類しているのか
3. 学会等名 平成30年度育志賞研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西本希呼
2. 発表標題 心のものさし - 世界の言語の車窓から
3. 学会等名 京都大学アカデミックデー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西本希呼
2. 発表標題 人と人間の調和した環境創りを目指して - 小島嶼地域を中心に
3. 学会等名 第22回島嶼研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田耕司
2. 発表標題 生成文法は進化言語学や生物言語学にどのように貢献できるのか（または、できないか）
3. 学会等名 名古屋哲学フォーラム2017秋「言語・進化・生物：生成文法の哲学をつくる」（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Koji Fujita
2. 発表標題 Evolinguistics: What is it, who does it, and how will it evolve? The evolution of hierarchical linguistic structure
3. 学会等名 Kyoto Conference on Evolinguistics 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2. 発表標題 Rethinking syllable typology from the perspective of evolinguistics: From universal constraints to interface conditions
3. 学会等名 Tokyo Conference on Evolinguistics 2018: Where Does Phonology Fit In? (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2. 発表標題 The shape and function of phonology in evolutionary linguistics: Why we can explore language origins from extant languages, and how
3. 学会等名 Linguistics Colloquium at SFU (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka, John Alderete, Quneenie Chan
2. 発表標題 The synchronic variation and diachronic change of Pinjam in Cantonese: Modeling its 'Unity in Variety' with OT
3. 学会等名 Tokyo Circle of Phonologists
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福井直樹
2. 発表標題 The Generative Enterpriseの諸側面(1): 生成文法と科学哲学
3. 学会等名 2017 Theoretical Linguistics at Keio (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福井直樹
2. 発表標題 The Generative Enterpriseの諸側面(2): 生成文法の主な源泉
3. 学会等名 2017 Theoretical Linguistics at Keio (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福井直樹
2. 発表標題 The Generative Enterpriseの諸側面(3): 生成文法理論の展開(前)
3. 学会等名 2017 Theoretical Linguistics at Keio (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福井直樹
2. 発表標題 The Generative Enterpriseの諸側面(4): 生成文法理論の展開(後)
3. 学会等名 2017 Theoretical Linguistics at Keio (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福井直樹
2. 発表標題 The Generative Enterpriseの諸側面(5): 比較統辞法の論点
3. 学会等名 2017 Theoretical Linguistics at Keio (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Naoki Fukui, Hiroki Narita
2. 発表標題 Towards symmetry-driven syntax
3. 学会等名 慶應義塾大学言語文化研究所講演会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中恭平・太田真理・福井直樹・辻子美保子・成田広樹・酒井邦嘉
2. 発表標題 自然言語の基本演算Mergeによる特異的な脳活動変化
3. 学会等名 第1回ヒト脳イメージング研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazumi Taniguchi
2. 発表標題 On the origin of get-passives in English: where does adversity come from?
3. 学会等名 14th International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazumi Taniguchi
2. 発表標題 A cognitive linguistics view of language acquisition and its implications for language evolution
3. 学会等名 Kyoto Conference on Evolving Linguistics 2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 谷口一美
2. 発表標題 <ことば>の獲得からみる心と脳
3. 学会等名 京都大学人間・環境学研究科公開講座「脳の可能性と限界」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Michio Hosaka
2. 発表標題 Micro vs. macro evolution of language
3. 学会等名 Hawaii University International Conference on Arts, Humanities, Social Sciences and Education 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Michio Hosaka
2. 発表標題 Ambiguity between the BE perfect and the BE passive in Old English
3. 学会等名 International Medieval Congress 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 保坂道雄
2. 発表標題 機能範疇創発のメカニズム
3. 学会等名 日本英文学会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 太田真理
2. 発表標題 言語学として神経科学・神経科学として言語学
3. 学会等名 Japanese Association of Scholars in Science Meeting (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shiro Ojima
2. 発表標題 A large-scale neuroimaging project on elementary-school children's language functions
3. 学会等名 CiNet's Friday Lunch Seminars
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 尾島司郎
2. 発表標題 多言語能力の進化
3. 学会等名 東北大学大学院国際文化研究科附属言語脳認知総合科学研究センター第1回ワークショップ「ことばの発達の神経科学」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本敦・片山順一・尾島司郎・仲村圭太・成瀬康・井原綾
2. 発表標題 脳波を用いた英語能力の評価
3. 学会等名 第3回坂本勉記念神経科学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shiro Ojima
2. 発表標題 A biolinguistic approach to multicompetence
3. 学会等名 Kyoto Conference on Evolving Linguistics 2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Rie Asano
2. 発表標題 Towards an action-based approach to the evolution of language and music
3. 学会等名 Protolang 5 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Uwe Seifert, Rie Asano
2. 発表標題 The biological foundations of the language and music capacity: quest for uniqueness?
3. 学会等名 Protolang 5 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 外谷弦太・浅野莉絵・橋本敬
2. 発表標題 2つの再帰「階層的埋め込み」「自己参照」：その適応的機能の差異とヒトにおける実現
3. 学会等名 認知科学会第34回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計45件

1. 著者名 岡ノ谷一夫・藤田耕司 編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 326
3. 書名 言語進化学の未来を共創する	

1. 著者名 畠山雄二 (編集委員長), 藤田耕司・長谷川信子・竹沢幸一 (監訳), 今仁生美 他 (訳)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 384
3. 書名 英文法大事典シリーズ10 『形態論と語形成』	

1. 著者名 畠山雄二 (編集委員長), 藤田耕司・長谷川信子・竹沢幸一 (監訳), 谷口一美 他 (訳)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 516
3. 書名 英文法大事典シリーズ 1 『動詞と非定形節, そして動詞を欠いた節』	

1. 著者名 菅井三実 他 編, 谷口一美 他 著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 416
3. 書名 認知言語学の未来に向けて 辻幸夫教授退職記念論文集	

1. 著者名 田中智之 他 編, 田中伸一 他 著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 448
3. 書名 言語の本質を共時的・通時的に探る	

1. 著者名 池内正幸	4. 発行年 2022年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 232
3. 書名 新・ヒトのことばの起源と進化	

1. 著者名 大津由紀雄・池内正幸 他 監修	4. 発行年 2022年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 368
3. 書名 言語研究の世界: 生成文法からのアプローチ	

1. 著者名 天野みどり 他 編, 本多啓 他 著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 279
3. 書名 構文と主観性	

1. 著者名 畠山雄二 (編集委員長), 藤田耕司・長谷川信子・竹沢幸一 (監訳), 松本マスミ 他 (訳)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 400
3. 書名 「英文法大事典」シリーズ第6巻 節のタイプと発話力、そして発話の内容	

1. 著者名 畠山雄二 (編集委員長), 藤田耕司・長谷川信子・竹沢幸一 (監訳), 保坂道雄 他 (訳)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 464
3. 書名 「英文法大事典」シリーズ 第9巻 情報構造と照応表現	

1. 著者名 岡ノ谷一夫 (編), 井原泰雄・岡ノ谷一夫・小林春美・橋本敬・藤田耕司 (著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 160
3. 書名 ことばと心	

1. 著者名 畠山雄二 (編集委員長), 藤田耕司・長谷川信子・竹沢幸一 (監訳), 岸本秀樹他 (訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 340
3. 書名 英文法大事典シリーズ8 『接続詞と句読法』	

1. 著者名 畠山雄二 (編集委員長), 藤田耕司・長谷川信子・竹沢幸一 (監訳), 寺田寛他 (訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 552
3. 書名 英文法大事典シリーズ3 『名詞と名詞句』	

1. 著者名 辻幸夫他 (編), 谷口一美・本多啓 他 (著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 847
3. 書名 認知言語学大事典	

1. 著者名 Tajino, Akira (ed), Taniguchi, Kazumi et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 149
3. 書名 A Systems Approach to Language Pedagogy	

1. 著者名 森雄一他 (編), 本多啓他 (著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 376
3. 書名 認知言語学を紡ぐ	

1. 著者名 鍋島弘治朗他 (編), 本多啓他 (著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 メタファー研究2	

1. 著者名 米倉よう子他 (編), 本多啓他 (著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 448
3. 書名 ことばから心へ 認知の深淵	

1. 著者名 星浩司・宮里恭子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 200
3. 書名 小児失語症の言語回復：ランドー・クレフナー症候群と自閉症の比較から	

1. 著者名 Li, Xiaoting & Tsuyoshi Ono (eds.), Endo, Tomoko et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Mouton de Gruyter	5. 総ページ数 350
3. 書名 Multimodality in Chinese Interaction	

1. 著者名 安井永子他（編），遠藤智子・高田明他（著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 指さしと相互行為	

1. 著者名 Haig, Geoffrey & Stefan Schnell (eds.), Kimoto, Yukinori et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 University of Bamberg	5. 総ページ数 0
3. 書名 Multi-CAST: Multilingual Corpus of Annotated Spoken Texts	

1. 著者名 田中廣明他（編），遠藤智子・木本幸憲他（著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 312
3. 書名 動的語用論の構築へ向けて 第3巻	

1. 著者名 中山俊秀他（編），木本幸憲他（著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 408
3. 書名 認知言語学と談話機能言語学の有機的接点	

1. 著者名 藤田耕司・田中伸一・池内正幸 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 364
3. 書名 言語の獲得・進化・変化 心理言語学, 進化言語学, 歴史言語学	

1. 著者名 Rodney Huddleson他(著), 藤田耕司 他(監訳)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 324
3. 書名 英文法大事典シリーズ第5巻『前置詞と前置詞句, そして否定』	

1. 著者名 Rodney Huddleson他(著), 藤田耕司 他(監訳)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 324
3. 書名 英文法大事典シリーズ第7巻『関係詞と比較構文』	

1. 著者名 Rodney Huddleson他(著), 藤田耕司 他(監訳)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 552
3. 書名 英文法大事典シリーズ第2巻『補部となる節, 付加部となる節』	

1. 著者名 Hiroki Narita, Naoki Fukui	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 300
3. 書名 Symmetry-Driven Syntax: An Inquiry into Endocentricity and Symmetry in Human Language	

1. 著者名 谷口一美 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 348
3. 書名 言語の認知とコミュニケーション 意味論・語用論, 認知言語学, 社会言語学	

1. 著者名 保坂道雄 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 200
3. 書名 歴史言語学	

1. 著者名 保坂道雄 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 253
3. 書名 英語学が語るもの	

1. 著者名 本多啓 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 252
3. 書名 認知言語学とは何か--あの先生に聞いてみよう	

1. 著者名 池内正幸 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 309
3. 書名 英語学を英語授業に活かす 市河賞の精神(こころ)を受け継いで	

1. 著者名 池内正幸 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 572
3. 書名 英語年鑑2018	

1. 著者名 藤田耕司・岡ノ谷一夫・谷口一美 他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 496
3. 書名 最新理論言語学用語事典	

1. 著者名 藤田耕司・池内正幸・保坂道雄 他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 517
3. 書名 不思議 に満ちた言葉の世界	

1. 著者名 藤田耕司・尾島司郎 他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 303
3. 書名 理論言語学史	

1. 著者名 Rodney Huddleson他(著), 藤田耕司 他(監訳)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 202
3. 書名 英文法大事典シリーズ第0巻『英文法と統語論の概観』	

1. 著者名 Rodney Huddleson他(著), 藤田耕司 他(監訳)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 239
3. 書名 英文法大事典シリーズ第4巻『形容詞と副詞』	

1. 著者名 田中伸一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 364
3. 書名 音韻研究の新展開	

1. 著者名 Naoki Fukui	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 288
3. 書名 Merge in the Mind-Brain: Essays on Theoretical Linguistics and the Neuroscience of Language	

1. 著者名 Noam Chomsky (著), 福井直樹・辻子美保子 (訳)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 238
3. 書名 統辞理論の諸相 方法論序説	

1. 著者名 Kazumi Taniguchi et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 244
3. 書名 A New Approach to English Pedagogical Grammar: The Order of Meanings	

1. 著者名 本多啓 他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 構文の意味と拡がり	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>共創的コミュニケーションのための言語進化学 http://evolvinglinguistics.net</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田中 伸一 (Tanaka Shin'ichi) (40262919)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	谷口 一美 (Taniguchi Kazumi) (80293992)	京都大学・人間・環境学研究所・教授 (14301)	
研究分担者	保坂 道雄 (Hosaka Michio) (10229164)	日本大学・文理学部・教授 (32665)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	太田 真理 (Ohta Shinri) (20750045)	九州大学・人文科学研究院・講師 (17102)	
研究分担者	福井 直樹 (Fukui Naoki) (60208931)	上智大学・言語科学研究科・教授 (32621)	平成31年度より研究協力者に変更
研究分担者	本多 啓 (Honda Akira) (80286111)	神戸市外国語大学・外国語学部・教授 (24501)	平成31年度より研究協力者に変更

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	池内 正幸 (Ike-uchi Masayuki) (20105381)	聖徳大学・語学教育センター・教授 (32517)	
研究協力者	星 浩司 (Hoshi Koji) (50286605)	慶應義塾大学・経済学部・教授 (32612)	
研究協力者	遠藤 智子 (Endo Tomoko) (40724422)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究協力者	木本 幸憲 (Kimoto Yukinori) (40828688)	兵庫県立大学・環境人間学部・講師 (24506)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	浅野 莉絵 (Asano Rie)		
研究協力者	ブックス セドリック (Boeckx Cedric)		
研究協力者	サミュエルズ ブリジット (Samuels Bridget)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計24件

国際研究集会 Joint Conference on Language Evolution	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 『しゃべるヒト』 ことばの不思議を科学する	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Evolinguistics Workshop 2019	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 JLS2019 招待シンポジウム 『脳科学の言語科学への貢献』	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 ICLC 15 Theme Session "Evolinguistics: Where Cognitive Linguistics and Generative Grammar Meet"	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Evolinguistics Symposia 2019	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 日本歴史言語学会2019年大会 招待シンポジウム 『進化言語学への招待』	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 東北学院大学 英語英文学研究所 定例公開講演会 『音韻論における関係特性』	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Spring School 2018 Language, Music, and Cognition: Organizing Events in Time	開催年 2018年～2018年

国際研究集会 Workshop “ The (co-)evolution of genes, languages, and music from data analyses to theoretical models ”	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際シンポジア EVOLINGUISTICS 2018 Michael Tomasello教授基調講演	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際シンポジア EVOLINGUISTICS 2018 シンポジウム Origins and evolution of language: archaeological and anthropological perspectives	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際シンポジア EVOLINGUISTICS 2018 Cedric Boeckx教授基調講演	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際シンポジア EVOLINGUISTICS 2018 Kyoto Conference on Evolvinguistics 2018	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際シンポジア EVOLINGUISTICS 2018 Kyoto International Psychology Seminar	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Ljiljana Progovac教授言語学講演会	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Tokyo Lectures in Evolvinguistics 2019	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Kyoto Lectures in Evolvinguistics 2019	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Wolfram Hinzen教授言語学講演会	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Cedric Boeckx教授言語学講演会	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Kyoto Conference on Evolvinguistics	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Tokyo Conference on Evolvinguistics: Where does Phonology Fit in?	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Sherman Wilcox教授言語学講演会	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 シンポジウム「手話言語と言語進化」Evolvinguistics Meets Signed Language	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

カナダ	Simon Fraser University			
英国	University of Essex			
英国	University College London			
ポーランド	Jagiellonian University			
米国	New York University			